

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年11月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1173100429
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	熊谷ケアセンターそよ風
所在地	〒360-0018 埼玉県熊谷市中央5-5-16 (電話) 048-528-8720

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年11月27日

【情報提供票より】(平成20年11月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 9人, 非常勤 5人, 常勤換算	12.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り
	2階建ての2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	35,000円 + 実費	
敷金	有(100,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日あたり 1,400円				

(4) 利用者の概要(11月14日現在)

利用者人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	79 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	熊谷総合病院、熊谷外科病院、慈恵病院、藤間病院、牛島歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、全国展開している会社のグループホームとして、介護計画の様式等統一したノウハウの上に、この事業所独自の理念のもと利用者の支援に取り組んでいる。また、利用者がホームに馴染みながらサービスを開始できるよう、見学・体験入居等を経て、本入居につなげてみるなど、利用者を第一に考えている。毎月送っているホーム便りからは、職員一人ひとりの利用者に対する視線の細やかさが見て取れる。また、気配りの行き届いた食事が提供され、昼食は選択メニューになっており、献立は豊富で食材も厳選されている。職員が利用者に自然に接しながら、本人本位のケアに努めているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題の一つである事業所独自の理念については職員全員で検討し、4つの理念に纏め上げ、日々ミーティングの中で具体化している。食事の支援についても試行錯誤を繰り返し、職員の半数が利用者と一緒に楽しく食事を摂りながら、さりげなく見守り・介助をしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で自己評価について検討している。ユニット間で利用者の特徴に多少違いがあるが、2ユニットとも同じ自己評価になっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、民生委員、地域包括支援センター、利用者の家族の参加を得て、定期的に開催されている。会議では、利用者の状況やホームの活動を報告するとともに、参加メンバーで話し合い意見交換を行っている。直近の会議ではグループホームの概要と職員体制について説明し、理解を得ており、議事録もきちんと取られている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者別に担当者を決めて、毎月利用者の家族全員に、体調・外出状況・受診状況・本人の写真・特記事項等をホーム便りとして送っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームとしての地域とのつきあいは今後の取り組みに期待される面もあるが、1階にあるデイサービスセンターと地域とのつながりがあり、中学生体験学習の受け入れやボランティア等との交流に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ブレインストーミング法で職員一人ひとりが現場でどう取り組んでいきたいか書き出し、それを4つの理念として纏め上げた。職員は作成の過程において利用者中心のケアが中核となるように心がけながら作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングで常に理念を確認し合い、利用者本位の支援を目指して日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者総替えのため、なかなか組織立った動きができていない。地域に溶け込もうと、日常的に挨拶を行って、気軽に声を掛けてもらいやすいように努力している。		自治会に加入するなどして、積極的に行事や地域活動に参加して交流を深めていくことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の改善項目に挙げられた「食事の支援」と「事業所独自の理念」の2点については改善されていたが、2つのユニットの自己評価が同様の内容になっている。		それぞれのユニットは雰囲気は違っていただけから、自己評価について今後はそれぞれ検討し纏められることを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、民生委員、地域包括支援センター、利用者の家族の参加を得て、定期的に開催されている。会議では、利用者の状況やホームの活動を報告するとともに、参加メンバーで話し合い意見交換を行っている。なお、議事録もきちんと取られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議においては市が出席しない方針をとっているため、会議の報告をすることで関係づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月担当職員により、行事の参加状況、受診状況、バイタル、コメント等が記載された報告書に写真を添えて家族に送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に、苦情処理窓口について説明している。家族から表出された意見や要望等については検討し、できるだけ運営に反映させるように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職する場合は、利用者の状況を見ながら対応を判断し、不安を与えることのないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社のブロック内研修会を開催したり、介護福祉士の受験対策として、職員が実技を教えている。また、1か月に1回デイサービス・介護支援専門員と一緒に研修会を行っている。その他、意見交換会を毎月開催し、認知症に対しての理解を深めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会議や意見交換等で交流する機会を持つようにしている。また、講師経験が豊富な併設されたデイサービスセンター職員から「移乗動作について」等の研修をしてもらっている。近々グループホーム協議会に加入する予定である。		今後は、職員が偏りなく地域の同業者と交流をもつことができるように、外部講師を招いたり職員体制を工夫して取組まれることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に見学を繰り返し受け入れ、その後2泊3日の体験入所を利用してからサービスを開始するなど、徐々に馴染みながら入居につなげることができるように努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と一緒に過ごす中で共感し合い、また利用者から教えてもらうことも多い。食事の際の利用者と職員の会話も自然で、お互いに支えあう関係が築かれている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの生活歴を聞いてアセスメントするとともに、日々の生活の中からの気づきから本人の思いや意向を把握している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の担当職員と計画作成者が話し合い介護計画を作成するとともに、休みの職員に対しては文書で伝えて周知を図っている。なお、介護計画書の様式は会社で統一されたものとなっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3か月に1回の見直しは行われている。モニタリングの内容及び状態の変化に対してのプラン変更もしっかり行われていた。しかし、介護保険更新時は介護計画の見直しがなされていない。</p>		<p>今後は、介護保険更新時も問題点を明確にし、変更がないか検討していくことが期待される。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が受診に同行できない際は職員が代行するなど、状況に応じた支援をしている。また、1階にあるサービスセンターの夏祭り等の行事に参加するなど、相互の行き来をしながら交流を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医での医療を受けられるように支援している。受診の際は、基本的に家族が同行することになっているが、対応できない場合は職員が代行している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「退居にあたっての条件」は寝たきり又は医療行為が必要になった場合と自傷他害の恐れが見込まれ共同生活が困難になった場合とし、方針の共有を図っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーを損ねることがないように声かけや対応に配慮している。排泄の際の声かけや入浴時には特に注意を払いながら対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食時起きられない方には、時間を置いて再度声かけしたり、居室で食事をする方にも配慮するなど、体調や希望を尊重した対応を心がけ、本人のペースを大切にしながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	魚か肉か選択できるようになっており、味付けや軟らかさまで気配りが行き届いている。半数の職員が利用者と一緒に食事をしており、見守り・介助を自然にできるようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2・3回入浴できるように支援している。朝から入浴することが可能であり、出来る限り本人の希望やタイミングに合わせるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ベランダのプランターで野菜を育てたり、じゃが芋の皮むきや洗濯物たたみ等を手伝ってもらうなど、力を活かした役割や楽しみごとのある生活となるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩をするほか、近くのコンビニに軽食など買いに出かけたり、職員と一緒に車で買い物に行っている。クリスマスにイルミネーションを見に行く予定を立てるなど、気分転換を図ったり、季節を感じられる外出も支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットは2階にあり、居室には鍵を掛けていない。安全面から日常的に1階に降りることは出来ないが、職員が揃って目が行き届く時間帯は開けるようにして、少しでも閉塞感が軽減するように努めている。また、利用者の様子を察知するようにして、外出したい場合は付き添って一緒にいくこともある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	5月に防災訓練を行った。12月には夜間を想定した訓練に、消防署や地域の人々に参加してもらう予定である。新入職員教育の中で防災対策について触れていなかった。また、防火管理規程については平成13年に作成して以来見直されていない。		訓練を実施する中で変更したことについては、防火管理規程を改正することを期待したい。また、新入職員に対しては研修等で消火器の場所、誘導方法、誘導場所等を明確にし、マニュアルの再考が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事摂取量についてはチェック表に記入することで把握し、栄養に偏りなくきちんと確保できているか確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットともトイレが3つ隣り合っており、わかりやすく、かち合うことなく利用できるようになっている。全体的に木のぬくもりを感じる家庭的な共用空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備え付けの洋服ダンスがある。その他、本人が安心して過ごせるよう使い慣れた馴染みの家具等を持ち込めるように配慮している。		